

# 奨 学 者

## 平成15年度甲種奨学金を授与されて

神奈川歯科大学  
顎顔面外科学講座

松本 剛一



神奈川歯科大学  
歯科保存学講座

斎藤 正寛



癌が有する多くの形質の中でどの形質が増殖・転移により密接に関連するかを判断するうえで最も信頼出来る指標は、その予後因子としての意義である。なかでも癌の血管新生の予後因子としての意義は、多変量解析においても独立した因子として位置付けられることが多い。癌は増殖のために必要な酸素や栄養を得るために多くの血管を形成することから、癌の血管新生を抑制し癌の増殖に必要な酸素や栄養を枯渇させる「兵糧攻め」は予後の改善になると推察される。そのため癌の血管新生に関わる遺伝子を標的とした治療の開発は非常に意義のあることと考えている。今後、ベンチサイドでの基礎研究の成果がベッドサイドでの臨床応用に繋がるように鋭意努力したいと考えている。

この度は神奈川歯科大学、同窓会、甲種奨学金を頂き、同窓会の先生方には心より感謝申し上げます。今回奨学金授与の対象となった研究は、歯周病の再生医療技術の開発となります。再生医療とは機能不全に陥った組織を幹細胞と呼ばれる万能細胞を移植し再生させる新しい医療技術です。私の所属する歯科保存学講座でも歯根膜、セメント質を再生する幹細胞を用いた歯周病の再生医療の研究開発を行っており、その研究成果を学会、学術誌で発表しております。このような技術開発は、将来神奈川歯科大学附属病院に再生医療の導入に大きく貢献することが期待されます。今後も、同窓会奨学金制度による大学内の研究活動支援と、神奈川歯科大学同窓会の益々の繁栄を心よりお祈り致します。